

【概要・目標】

保健看護学の現場は対人援助の現場であり、情報収集・伝達、意味・価値観の共有、関係の構築・理解の対人コミュニケーションの現場でもある。コミュニケーション学を知らなくとも、我々はその「場」に身を置いている時点で誰もが既に実践者である。しかし、対人コミュニケーションの原理や機能を知ること、実践をより効果的なものに改善することや、失敗やトラブルの発生理由を見出すことが可能になる。本科目ではそのような実践に資する基礎的な理論を学ぶ。

【授業内容・スケジュール】

- 1) 最終回(最終日)の目標設定
 - 2) 3) 会話分析 西阪ら(2013)を読む
 - 4) 5) 会話分析 Heritage & Maynard (2006/2015)を読む
 - 6) 7) 会話分析 藤崎ら(2018)を読む
 - 8) 9) ポライトネス 船田・菊内(2017)を読む
 - 10) 11) フェイスとアイデンティティ 末田(2012)を読む
 - 12) 13) ナラティブ・ベイス・メディスン Charon et al. (2017/2019)を読む
 - 14) 15) ナラティブ・ベイス・メディスン 承前
- ※第1回以外は、6・7時限に隔週で開講される。曜日は必修科目のない曜日である。
-

【評価】

- 毎回の授業の前にテキストを読み、自身が考えたことを A4 用紙 1 枚(表紙不要で本文 1 枚のみ)にまとめる「ディスカッション・ペーパー」を毎回用意して提出すること。(70%)
 - 6 冊の本を読んだ上で、船田・菊内以外の 5 冊の本をまとめて書評する。(30%)
-

【テキスト】全て必携

西阪 他 4 名(著)「共感の技法」勁草書房 2013
ヘリテッジ・メナード(編著)「診療場面のコミュニケーション」勁草書房 2015
藤崎和彦(監修)「医療者教育のビデオ・エスノグラフィー」晃洋書房 2018
船田・菊内「エキスパートナースの実践をポライトネス理論で読み解く」医学書院 2017
末田 「多面的アイデンティティの調整とフェイス(面子)」ナカニシヤ出版 2012
シャロン 他 7 名(著)「ナラティブ・メディスンの原理と実践」北大路書房 2019

※総額が高額であるため経済的な入手法で手配すること。もしあれば電子版を用いても良い。

【推薦参考図書】

追って指示する。

【その他】

アポイントメントは電子メールにて：masuda@wakayama-med.ac.jp